

長崎での御幡雅文氏の墓石調査報告

日時 2013年10月7日（月）
場所 曹洞宗皓臺寺（長崎市寺町）

調査実施者／藤田 佳久・森 健一

10月5、6日の長崎展示会・講演会の開催の折、東亜同文書院に関わりの深い人物である御幡雅文氏のお墓がある曹洞宗皓臺寺（長崎市寺町）に出向き、所在確認と墓石調査を行った。墓石周辺は、墓石を含め囲いの中は雑草が茂っており、見つけるのは容易でなかったことから、今後手入れなどの対策を考える必要がある。なお、今回の確認・調査業務に関して、石田卓生氏（愛知大学非常勤講師）の情報を基に実施した。

御幡雅文略歴：

御幡雅文（おばた・まさぶみ。1859～1912）。肥前国長崎（現長崎県長崎市）出身。中国語通訳、東亜同文書院の中国語教育の礎を築いた中国語教育家。東京外国語学校漢語学科を経て陸軍省派遣北京留学生。熊本鎮台で荒尾精に中国語教授し、済々黌（せいせいこう。現熊本県立済々黌高等学校）、長崎商業学校（現長崎市立長崎商業高等学校）で中国語を教えた。荒尾に誘われ日清貿易研究所の中国語教員となり、東亜同文書院でも中国語を教える。そこでは彼の著書である中国語教科書『華語跬歩』（かごきほ）が使われた。



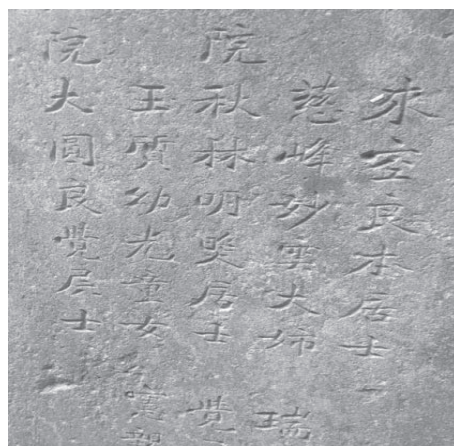
皓臺寺（長崎市寺町）



墓石の囲いの中は草木が茂り、容易に近付けない。



御幡氏の墓石。「御幡氏累代之墓」と明記。



御幡氏の墓石裏面